

**創薬基盤推進研究事業 研究開発課題
事後評価報告書**

事業名（年度）	創薬基盤推進研究事業（令和5年度～令和7年度）
研究開発課題名	臨床エビデンス・宿主疾患感受性遺伝子に立脚した気道微小環境への介入による肺非結核性抗酸菌症の新規治療薬創出
代表機関名	慶應義塾大学
研究開発代表者名	南宮 湖

総合評価：良い

【評価コメント】

本研究は、肺非結核性抗酸菌 (NTM) 症の臨床コホートを基盤として、肺 *Mycobacterium avium* complex (MAC) 症の疾患感受性遺伝子 CHP2 の関与を明らかにしてきたエビデンスに基づき、肺 NTM 症における分子機能の解析及び新規治療薬の創製を目指した研究である。CHP2 及び NHE が感染に関与することや、エストロゲンとの関連性など、宿主側の疾患感受性に関する重要な知見を蓄積した点は評価できる。一方で、創薬標的の絞り込みやスクリーニング系の確立については引き続き検討が必要な状況にあり、研究計画全体の達成目標に向けてさらなる進展を期待する。

今後は、これまでに得られた知見を体系的に整理するとともに、未解明な課題点とその解決策を明確化し、創薬標的の選定や評価系の構築を進め、新規治療薬の創出につながる研究へと発展させることを望む。

以上